

領域 4 インフォーマルミーティング議事録

日時：2025 年 3 月 18 日(火曜日) 18:00 ~ 19:00

場所：日本物理学会 2025 年春季大会オンライン開催（書記：篠崎）

出席者（敬称略）

- ・ 領域代表：村上修一
- ・ 副領域代表：柏谷聡
- ・ 運営委員：秋葉和人，大湊友也，蒲江，大熊信之，小林伸吾，篠崎基矢
- ・ 次期運営委員：奥川亮，佐藤洋介
- ・ 次々期運営委員：松岡秀樹



1 報告事項

1-1 次期領域代表・副代表について

領域代表・副代表の交代について以下の報告がなされた。

次期領域代表(2025.4-2026.3)：柏谷 聡(名古屋大学)

次期領域副代表(2025.4-2026.3)：佐藤 昌利(京都大学)

1-2 プログラム小委員会・領域委員会報告(2024 年 12 月 9 日(月)13:00-16:35 オンライン開催)

プログラム小委員会・領域委員会に關して以下の報告がなされた。

- ・ 講演申し込みのスケジュールの改善について、今大会から例年より 1 か月程度後ろ倒しにすることに決定。
- ・ 計算物理領域は新設の方向。
- ・ 講演の英語化については賛否両論、とりあえずは現状維持。また、今大会から試験的に翻訳ツールを導入。
- ・ 招待講演、企画講演、チュートリアル講演、シンポジウムについて、提案されたものの中で不採択はなし、多少の微修正はあり。
- ・ 領域 4 関連の企画は 5 つあるが、主催がなかったので、今後領域 4 からの主催提案があると良い。
- ・ 領域 4 の概要提出率について今大会では 93.2%であった。誤差の範囲とは思われるが他の領域と比べると少し低い。概要提出を呼び掛けて数値向上を目指す。

1-3 大会運営委員会(新設予定)の議事録まとめ

大会運営委員会の議事録まとめとして以下の報告がなされた。

- ・会員アンケートの結果をふまえ、当面は3月に春季大会をオンライン開催、9月に年次大会を対面開催とする方針となった。
- ・オンラインは土日祝日を含まない連続した4日間、もしくは、土日祝日を挟む平日4日間とする。対面開催は極力土日祝日を避けるに留める。
- ・一般公演の申し込み時期を一か月程度遅くし、登壇者変更、講演取消、講演移動以外は、原則受け付けない。
- ・オンライン開催時は、会員学生は聴講無料とする。

1-4 事務局からの依頼

1-4-1 オンライン大会でのポスターセッションのあり方について

ポスターセッションでの議論が活性化しないのでどうすべきか、あまり良いアイデアがないのが現状。

ポスターに代わる発表形式の案を検討する方針、良いアイデアがないか募集する。3/31までに領域代表経由で事務局に連絡。

1-4-2 80周年記念国際シンポジウムについて

物理学会80周年の記念事業として、2026年9月に東京大学で開催される物理学会の前日に、国際シンポジウムが開催される。

1-4-3 同時翻訳字幕機能の導入について

今大会から試験的に導入されている。運営委員や座長に負担が増えることは特にない。使い勝手などのフィードバックがあれば、3/31までに事務局に連絡

1-4- 計算物理領域との合同セッション

・計算物理領域の新設に伴い、講演者数が減らないようにするため、計算物理領域は全て合同セッション扱いにする。

計算物理領域では3つの合同セッションテーマが検討されている。これらとの合同領域を希望するかどうかが審議が必要。(現状、領域4では3つの合同セッションが設定されている)

- ・合同セッションを設けるとプログラム編集が大変になるが、講演数確保の面では良い。
- ・実際、合同セッションのプログラム編集は大変だったか？

→そんなに大変では無かったが、一方で合同セッション形だけ、名前だけになりがち。本当の合同セッションという意味がどれほどあるのか。相手方から、"名前だけ合同にしてください"などの消極的なコメントを貰うなど、難しいところもある。

・若手奨励賞の受賞者数などは領域の講演者数に連動するので、合同セッションがあると受

賞者数を増やすことができる。ただ、領域 4 でのニーズがないなら積極的に設ける理由もない。

・これらを承知の上で、事務的に大変なら合同領域の数を必要最小限にすればよい。手間がそんなに掛からないのであれば全部入れても良いのでは。

→あんま手間ではなかった。

→大会ごとに毎回変えられるので、とりあえず試しに全部入れてしまってもいいかもしれない

→類似の他領域への講演者の流出を防ぐ意味でも、合同セッションは良いかもしれない。

【結論】プログラム編集的にも大きな手間ではないので、3つ全てのテーマとの合同領域を希望する、と一旦回答する。実際にやってみて、面倒・意味ないと感じたら適宜変えていく。

1-5 第 19 回日本物理学会若手奨励賞(領域 4)について

・選考結果、審査員に関して以下の説明があった。

受賞者：野入亮人 氏(理研)，横溝和樹 氏(東大)

審査員：村上修一(東京科学大)，柏谷聡(名大)，佐藤宇史(東北大)，佐藤昌利(京大)，塚崎敦(東大)

・利害関係者は審査には加わっていない。例年 10 件前後の応募があり受賞者は 2 名だが、この数は講演数と連動しているので、講演数を増やす努力ができるとうい。

1-6 領域 4 学生優秀発表賞について

・第 79 回年次大会(2024 年秋)の選考結果について以下の説明があった。

受賞者：遠藤幹大 氏(東大工)，佐藤宏季 氏(名大理)，菊地理紗子 氏(名大理)

・今大会では応募者が今回 15 名と少ない、なぜ例年より減ったのかは不明。

・応募プロセスは 2 段階あり、エントリーしたものの申請書を出さない人がある。今回は 25 人エントリーしたが締め切りまでに 10 人が申請書を提出、リマインド・締め切り延長を行い最終的に応募者が 15 人となった。この問題は以前からあり、どう対処するか今後の課題。受賞者数は応募数の 10%程度、最大 4 件なので、応募数が少ないと受賞者数が少なくなる。

1-4 AAPPS-JPS Award について

・AAPPS-JPS Award について、領域 4 からの推薦者を領域 ML で募集し、代表と副代表で選出。

・年によって推薦者の募集方法が違う。ML で募集するか、または内内で募集するかなど。選出方法については代表と副代表の裁量で決まる。

2 審議事項

2-1 学生優秀発表賞の応募方法について

・応募方法の改善が必要か？去年まではメールによる応募であった。この場合、五月雨式にメールが送られてきて、都度返信する必要がある。今年は box アップロードに変えたことで手間が減った。今後もこの方法が良いと考えられる。

・指導教員のサインは必要か？ここも場合によっては変更の余地あり。

.

2-2 新運営委員の紹介、次期運営委員

次々期運営委員(2024.10 から 1 年)が推薦・紹介され、承認された。現役、次期、次々期運営委員の構成は次の通りとなった。

現役 (2024.4 - 2025.3)	次期 (2025.4 - 2026.3)	主担当分野
大湊友也 (早大高等研)	磯部大樹 (九大)	量子ホール
大熊信之 (九州工大)	奥川 亮 (理科大)	トポロジカル(理論)
篠崎基矢 (東北大/AIMR)	佐藤洋介 (東大物性研)	量子ドット

現役 (2024.10 - 2025.9)	次々期 (2025.10 - 2026.9)	主担当分野
小林伸吾 (理研)	立石幾真(阪大理)	半導体
蒲 江 (東京科学大)	松岡秀樹 (東大生産研)	グラフェン
秋葉和人 (岡山大)	藤井拓斗 (兵庫県立大)	トポロジカル(実験)

2-3 運営委員の担当について

次期の業務担当は、以下の通りとすることが承認された

運営委員の連絡責任者：秋葉和人 (岡山大)

メーリングリスト・Dropbox 担当：蒲 江 (東京科学大)

インフォーマルミーティング・領域 HP 担当：小林伸吾 (理研)

2-4 第 80 回年次大会(2025 年)の予定について

・以下の予定であることが確認された。

一般講演申し込み締切：6 月 10 日 (火) ~ 7 月 3 日 (木) 14 時

講演概要集原稿締切(Web)：2025 年 8 月 12 日 (火) 14 時

開催日時：9 月 16 日(火)~19 日(金) (広島大学・東広島キャンパス)

2-5 第 80 回年次大会(2025 年)キーワードについて

・春季大会では前回のインフォーマルミーティングでの議論を考慮し、量子ドットと半導体量子情報を 1 つにした。このキーワード変更は秋の年次大会には自動には引き継がれないため、今回の変更をそのまま年次大会でも適用することが承認された。

2-6 招待・企画・チュートリアル・シンポジウム講演について

領域活性化のために、領域 4 からの積極的な提案を募集。

以上